

高校家庭科教員の資質の向上について

－ 家庭科教員の資質の構造化に着目して －

学籍番号 199331

氏名 田中 雛乃

主指導教員 小崎恭弘

1. 背景

1.1 研究の目的

本教育実践課題研究の目的は、高校家庭科教員に求められる資質を明らかにし、それを向上させるために教員となる前からできる取り組みを考案することである。教育を取り巻く環境は大きく変化し、教員に求められる専門性も非常に高いものが期待される。その中で、教員として経験を積んでいく上で獲得していく能力とは別に、現場にでてすぐに必要となる力はどんなものなのか、それを獲得するにはどのようなことを行えば良いのかを明確にしたい。それを明確にすることで、教員を目指す時期を過ぎす上で効果的な活動方法がわかり、今後の家庭科教育の発展に貢献できるのではないかと考える。

1.2 目的設定の背景

実践課題研究で上記の目的を設定した理由として、学校実習の際、大学時代からの自分自身の教員としての面での成長を感じることができなかったことが挙げられる。

これまでの大学や教職大学院での成長できる機会を最大限に活用し切れていないのではないかと考えたため、現場に出たときより即戦力となる存在になれるよう、教員を目指す段階でできる取り組みや持つべき意識を明確にしたいという思いからこの目的を設定した。

2. これまでの取り組み

2.1 2年間の取り組み

以下の表が、二年間の西高校での実習の主な取り組みである。研究は主に、第2学年で実施されている家庭基礎を対象に行った。

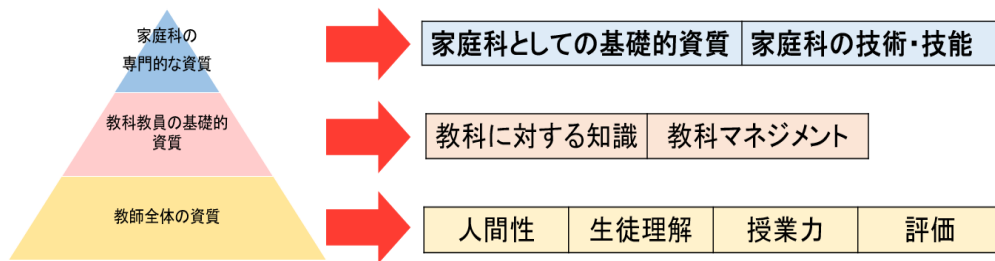
| 期間 | テーマ | 内容 |
|------|----------------|--|
| 1年前期 | 被服製作実習における教材環境 | 実習校で実施されているミシンでエプロンを製作する被服製作実習において、ミシンの台数や授業の形態、扱う作品の種類などにより生徒の学習にどう影響があるのかを調べる。 |
| 1年後期 | 保育領域における教 | 実習校で保育領域の授業を2コマ実践し、生徒に |

| | | |
|---------|----------------|---|
| | 材環境 | アンケートを取って、授業を受ける前と後で生徒の考え方にどのような変化が生じたかを検証する。 |
| 2年前期・後期 | 家庭科教員としての資質の向上 | 2年間の実習について、評価シートを用いて実習校の指導教員から評価をもらい、同じ評価項目で行った自己評価と比較し、これまでの学びで得られたものと足りていないものを明らかにする。 |

2.2 これまでの取り組みから見る家庭科教員の資質

2年前期での評価シートの内容などから考察した結果、家庭科教員としての資質を構造化すると、基盤となる教員全体の資質が土台としてあり、次に教科教員としての基礎的資質、そして最後に家庭科の専門的な資質が上に乗る3段階になっているという結論に至った。

その中で各資質を評価シートの項目をもとに細分化したものが以下の図となった。



3. 結論

3.1 結論

高校家庭科教員に求められる資質として、「教員全体の資質」と「教科教員の基礎的資質」と「家庭科の専門的な資質」の3段階からなる構造を示すことができた。それを細分化し整理をしたところ、それぞれの資質は基盤である「教員全体の資質」から派生し関わっているものであることが分かった。

また、それぞれの資質の獲得・向上について、私自身の大学4年間を含めた学校実習までの取り組みや学習をふり返り、それが可能な段階とその方法を一つずつ明らかにした。このことから実際に現場に出てからでないと獲得の難しい資質と、教員を目指す段階で向上させることのできる資質を分類することができた。

その、教員を目指す段階で向上させることのできる資質について、どのような取り組みをすることが最も効果的であるのかということについてだが、求められている資質を理解することと、教職を意識した学習以外の普段の生活で幅広い研鑽を積むことに努めることというのが最も重要であるという考察をたてることができた。授業の仕方や生徒との関わり方を学んだり、実習に取り組んだりする前に、まずは自分がこれから培わなければならない、家庭科教員に求められている資質について図8のように細分化された構造を正しく理解をすることでそれ以降の取り組みへの意識や反省・改善の仕方に大きく影響すると結論づけた。